

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

がん教育事業の評価方法の検討
研究分担者 助友 裕子 日本女子体育大学 教授

研究要旨：本研究では、がん教育アウトカムとそのモニタリング方法を検討することを目的とした。本研究は、がん対策推進に資する政策的研究であることから、学校健康教育関連調査のレビュー、行政担当者へのヒアリング、がん教育ロジックモデルと調査票の開発を行った。その結果、まず、児童生徒を対象としたがん教育の全国調査は、がん教育の内容に沿って、児童生徒のがんの知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性についてたずねるもので構成されていた。次に、薬物乱用防止教育関連調査は、平成8年度より隔年で継続されており、作業工程の確立とともに、調査実施が学校現場に負担とならないよう工夫したり、調査実施が薬物乱用防止教育の一環となり得るよう教育的配慮のもとに設計されたりしていた。さらに、行政担当者へのヒアリングでは、厚生労働省と文部科学省の両者の政策課題を実現することを意図した評価計画の必要性が語られた。そして、がん教育アウトカムを、がん対策アウトカム（長期アウトカム）に直結した各分野（中間アウトカム）に寄与する初期アウトカムとして設定し、調査票案を作成した。本研究では、がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルおよび高等学校2年生を対象とした調査票案を提示した。今後は、全国調査を行うために調査票の信頼性と妥当性を検討する必要がある。

A. 研究目的

これまでがん教育のアウトカムについては、それまで測定困難とされていた小中学校でのがん教育実施率（56.8%：文部科学省、平成29年度がん教育実施状況調査による）、小学6年生のうち「早期発見・治療で治るがんがある」と回答した者の割合（小学校85.7%、中学校92.7%、高等学校73.3%：文部科学省モデル事業公表値（平成28年度）による全国推計値による）、学校でならったがんについて家庭で話したことがある小学6年生の割合（小学校80.1%、中学校79.1%、高等学校57.3%：文部科学省モデル事業公表値（平成28年度）による全国推計値による）の3指標が適切であると報告されている。しかし、これら3指標は、がん教育のアウトカム指標というよりストラクチャー指標であるとの指摘があり、必ずしもがん対策としての成果に結びついているかどうかは明らかではない。

そこで、本研究では、がん教育アウトカムとそのモニタリング方法を検討することを目的とした。

B. 研究方法

1. 学校健康教育関連調査のレビュー

本研究は、がん対策推進に資する政策的研究であることから、厚生労働科学研究として過去に児童生徒を対象に全国調査として実施されたがん教育と薬物乱用防止教育に関する研究をレビュー対象とした。がん教育については、研究班報告書（厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究」研究代表者 植田誠治（以下、植田班）およびフォローアップとして実施された日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）「インクルーシブながん教育実現のための総合的研究」研究代表者 杉崎弘周（以下、杉崎班））ならびに文部科学省がん教育総合支援事業モデル校において実施された調査を対象とした。薬物乱用防止教育については、研究班報告書（厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況等のモニタリング調査

と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究」研究代表者 嶋根卓也（以下、和田班および嶋根班）を対象とするとともに、研究代表者へのヒアリングを2020年8月上旬に実施した。

2. 行政担当者へのヒアリング

がん教育事業の評価については、がん対策の立場から厚生労働省が、学校健康教育の立場から文部科学省がそれぞれ所管している。異なる省庁ががん教育という共通の施策を推進するにあたり、各々の方向性を把握した上でアウトカムを検討することが重要であることから、グループインタビューの手法を用いたヒアリングを2020年8月下旬に実施した。

3. がん教育ロジックモデルと調査票の開発

1.ならびに2.をふまえて、がん教育の新しいアウトカムを設定するために、がん対策アウトカムに資するがん教育ロジックモデルを策定した。策定に際し、行政担当者、教育委員会指導課長、がん対策の専門家、学校健康教育の専門家等からなる協力者会議を構成し、2021年1月下旬にオンラインによるワークショップを実施した。そこで練られた意見をもとに、調査票案を作成した。

4. 倫理面への配慮

3.で作成した調査票を、2021～2022年度にかけて配布・実施する予定である。このことから、3.では、学校現場の実態に即した配慮事項を施すための助言も得ることとした。

C. 研究結果

1. 学校健康教育関連調査のレビュー

表1に、児童生徒を対象とした学校健康教育関連全国調査の施設回収率を示す。がん教

育は、平成24年度と平成30年度に小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生を対象にそれぞれ実施され、施設回収率は、40～50%台を推移した。薬物乱用防止教育は、平成8年度より中学生を対象に隔年実施され、施設回収率は、平成2年度に76.3%であった。

表2に、がん教育研究班の調査項目、表3に、文部科学省がん教育総合支援事業モデル校において児童生徒対象に実施された調査項目を示す。両調査は、がん教育の内容に沿って、児童生徒のがんの知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性についてたずねるもので構成されていた。

表4に、ヒアリングから得られた薬物乱用防止教育関連調査の概要を示す。平成8年度より隔年で継続している当該研究では、作業工程が確立している。学校教育課程に合わせ、1学期に通知、2学期に調査実施ならびに文書と電話による督促および回収、3学期に集計および報告を行っていた。また、文部科学省や教育委員会への協力要請を行い、調査実施が学校現場に負担とならないよう工夫を施していた。さらに、調査実施が薬物乱用防止教育の一環となり得るよう教育的配慮のもとに調査票が設計されていた。

2. 行政担当者へのヒアリング

表5に、厚生労働省と文部科学省の行政担当者へのヒアリングから得られた両省のがん教育事業評価の方向性を示す。厚生労働省のがん対策の評価、文部科学省の学習指導要領実施状況評価など、異なる政策課題、異なるタイミングでの評価スケジュールは課題であるものの、両者の政策課題を実現することを意図した評価計画の必要性が語られた。

3. がん教育ロジックモデルと調査票の開発
図1に、協力者会議（オンラインワークショップ）により協議されたがん教育ロジックモデルと、これをもとに作成した調査票案を資料1に示す。がん教育アウトカムは、がん対策アウトカム（長期アウトカム）に直結した各分野（中間アウトカム）に寄与する初期アウトカムとして設定された。一部は、研究班調査票（表2）や文部科学省調査票（表3）、先行研究から引用した。また、系統性をふまえた学校健康教育の現状に鑑みて、がん教育アウトカム（がん対策アウトカム）を測定する際の調査対象は、保健教育が終了する高等学校2年生とすることが妥当であると判断された。

D. 考察

本研究計画年度で作成した調査票は、学校現場に受け入れられるよう、最終的には教育委員会指導課長の助言を得て整える。研究計画年度2年目には、調査項目の信頼性と妥当性を検討するために、国内2県（首都圏、島しょ部）においてパイロット調査を実施する。その後、微修正した調査票を用いて研究計画年度3年目に全国調査を実施する。

一方、本研究は、がん対策の推進に資する政策的評価の一環として実施されることから、設定した指標の妥当性評価が十分に行われないう可能性がある。このことを補完するために、パイロット校を増やし、多様な調査項目を用いて評価指標を精選することが必要かもしれない。

E. 結論

本研究では、がん教育アウトカムとそのモニタリング方法を検討した結果、がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルおよび高

等学校2年生を対象とした調査票案を提示した。今後は、全国調査を行うために調査票の信頼性と妥当性を検討する必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 助友裕子, 東尚弘, 若尾文彦. 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事—がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述—. 日本健康教育学会誌 2021 ; 29 (2) : in press.
2. Takeuchi E, Fujisawa D, Miyawaki R, Yako-Suketomo H, Oka K, Mimura M, Takahashi M. Cross-cultural validation of the Cancer Stigma Scale in the general Japanese population. Palliat Support Care. 2020 Jul 1:1-7. doi: 10.1017/S1478951520000486. Online ahead of print.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産の出願・登録状況

なし

表1 児童生徒を対象とした学校健康教育関連全国調査の施設回収率

	がん教育		薬物乱用
	がん臨床 植田班※1 (H24)	科研B 杉崎班※2 (H30)	厚労科研 和田班・嶋根班 (H8~30/2年)
小学校	44.1% 94/213	41.4% 89/215	
中学校	46.4% 103/222	51.9% 111/214	76.3% 183/240
高等学校	55.8% 116/208	52.8% 114/216	← がん教育事業評価 のターゲット?

(理由) ■系統性のあるがん教育のエンドポイント
■都道府県教育委員会と直結=回収率↑

※1 厚労科研(がん臨床)「学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究」研究代表者 聖心女子大学 教授 植田誠治
※2 科研費(基盤B)「インクルーシブながん教育実現のための総合的研究」研究代表者 新潟医療福祉大学 准教授 杉崎弘周

表2 がん教育研究班(植田班・杉崎班)の調査項目—高校2年生対象—

- 1) あなたは男ですか、女ですか。
- 2) あなたは、「がん」についてどのような印象を持っていますか。
- 3) 「がん」は治療で治ると思いますか。
- 4) あなたは将来、自分が「がん」になると思いますか。
- 5) 「がん」は予防できると思いますか。
- 6) 「がん」の検診を受けられる年齢になったら、あなたは検診を受けようと思いますか。
- 7) 「がん」の検診はどこで受けられると思いますか。
- 8) 「がん」の検診はどのような人が受けるものだと思いますか。
- 9) 「がん」はどのような原因でなると思いますか。
- 10) 「がん」のことで正しいと思うもの
- 11) 「がん」のことを何で見たり知ったりしましたか。
- 12) 「子宮頸がん」の予防のためのワクチン接種があることを知っていますか。
- 13) 「がん」の治療方法で知っているもの
- 14) 親とがんのことを話したことがありますか。
- 15) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。

表3 文部科学省がん教育総合支援事業モデル校対象の調査項目

- a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。
- b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。
- a がんは誰もがかかる可能性のある病気である。
- b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。
- c がんは日本人の死因の第2位である。
- d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。
- e 早期発見すれば、がんは治りやすい。
- f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。
- g がんの治療法には手術治療しかない。
- h がんの痛みは我慢するしかない。
- a 自分はがんにならないと思う。
- b 将来、たばこは吸わないでいようと思う。
- c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。
- d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。
- e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。
- f がんになっても生活の質を高めることができる。
- g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。
- h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。
- i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。
- j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。

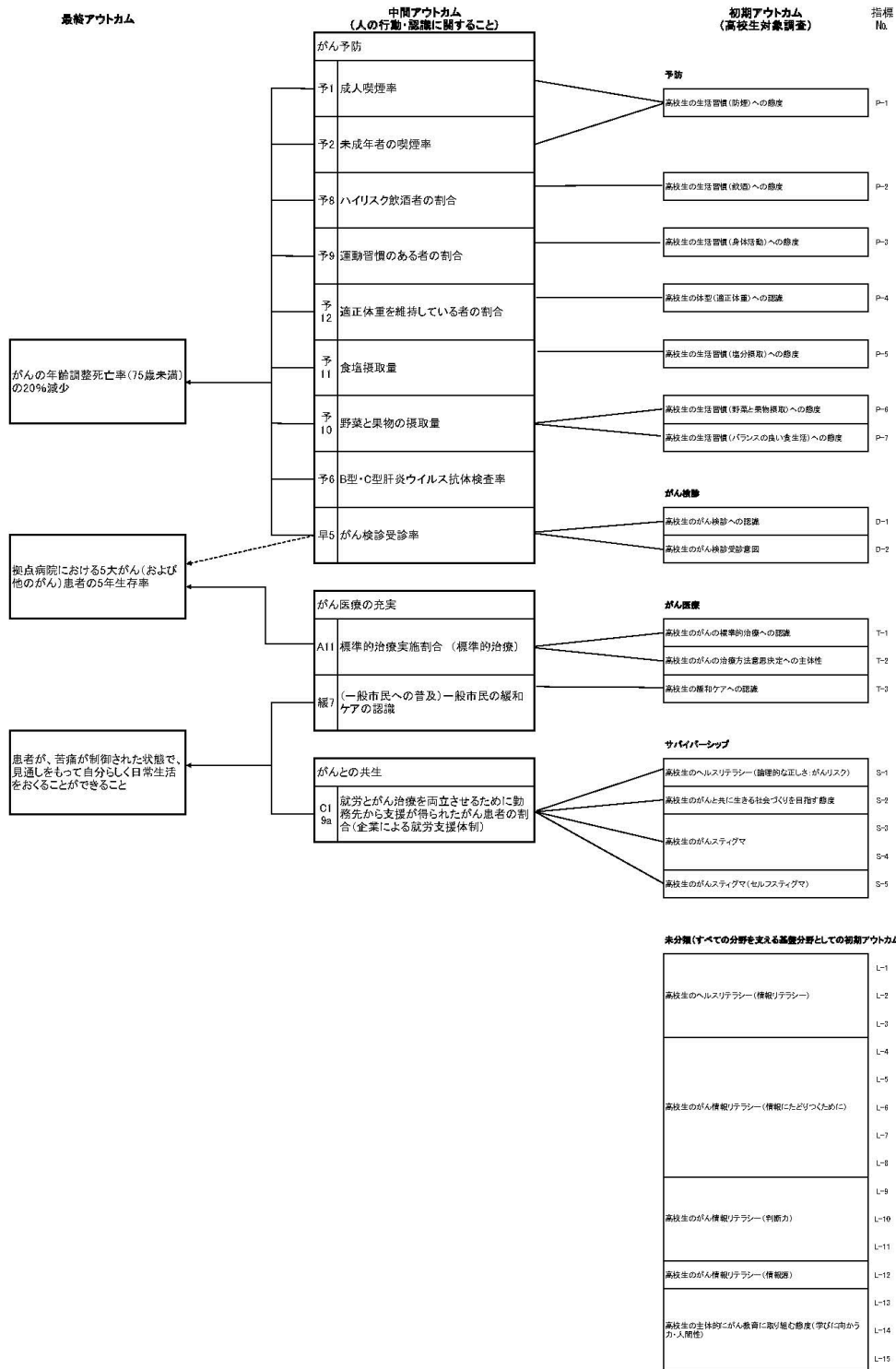
表4 薬物乱用防止教育関連調査の概要

<p>(研究班)※</p> <ul style="list-style-type: none"> ■厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)「薬物乱用・依存状況等のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究」(H29-医薬-一般-001) ■研究代表者 嶋根卓也(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室長) ■成人向け:第●回飲酒・喫煙・くすりの使用についての全国調査 ■児童生徒向け:第●回飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査 <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2年研究計画年度、成人向け・児童生徒向けを隔年実施(メインは成人向け) ■H31より指定研究(薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究)

表5 厚生労働省と文部科学省の行政担当者におけるがん教育事業評価の方向性

<p>1. エビデンスに基づいた研究立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実例づくり、予算規模の確認など ・継続性のある評価方法を検討する <p>2. 評価内容の精査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度高校全面实施スタートに合わせる ・「がん教育実施状況調査」の内容の見直し <p>3. 文部科学省-厚生労働省のwin-win関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省=がん対策の評価、がん教育の位置づけは要検討 ・文部科学省=新規学習内容の評価、カリキュラムマネジメント(〇〇教育)の評価

図1 がん教育ロジックモデル



資料1 がん教育調査票案

<p>がんについてのアンケート（高校2年生）</p> <p>このアンケートは「がん」に対する率直なご意見をお聞きするものです。</p> <p>あなたのお気持ちに最も近い番号に○をつけてください。</p> <p>もし、答えたくない質問があれば無理に答える必要はありません。</p>

Q1. あなたご自身についてご記入ください。

性別 【どちらかに○】 男 ・ 女

Q2. がんと生活習慣に関する以下の質問について、最もあてはまるものに○をつけてください。（それぞれひとつずつ）

		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
1	たばこは吸わないでいようと思う。	1	2	3
2	お酒は飲みすぎないようにしようと思う。	1	2	3
3	適度に運動を行おうと思う。	1	2	3
4	適正体重を維持しようと思う。	1	2	3
5	塩分を取りすぎないようにしようと思う。	1	2	3
6	野菜や果物を十分にとろうと思う。	1	2	3
7	日頃から、バランスの良い食生活に取り組もうと思う。	1	2	3
8	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	1	2	3

Q3. 国が推奨しているがん検診は、どのような人が受けるものだと思いますか。適切だと思うものをすべて選んでください。

1. 自覚症状のある人 2. 医者から受けるようにすすめられた人
3. 1, 2に該当しないが一定の年齢を過ぎたすべての人

Q4. もしあなたががんと診断されたら、治療方法は誰が中心となって決めますか。あなたの気持ちにもっとも近いものをひとつだけ選んでください。

1. 医師 2. 患者(自分) 3. 家族 4. わからない

資料1 がん教育調査票案 (つづき)

Q5. がんの標準治療として適切なものをすべて選んでください。

1. 手術療法 2. 化学療法 3. 放射線療法 4. 免疫療法
5. 生体療法 6. 自然治癒力増強療法 7. がんゲノム医療 8. わからない

Q6. 緩和ケアは末期がん患者のみに適用される医療である。

1. そう思う 2. どちらともいえない 3. そう思わない 4. わからない

Q7. 生活習慣とがんの関係について説明したものとして、適切だと思うものをすべて選んでください。

1. がんは、生活習慣の改善で予防できる
2. がんは、どのような生活習慣を送ったとしてもかかる可能性は変わらない
3. がんにかかったすべての人が不適切な生活習慣を送っていたわけではない
4. 不適切な生活習慣を送っていると絶対にがんにかかる
5. わからない

Q8. がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。

1. そう思う 2. どちらともいえない 3. そう思わない

Q9. 次の質問では、あなたのがんに対する考え方やイメージについて伺います。それぞれの項目についてどのくらいそのように思うかあるいは思わないかのいずれかひとつを選択してください。万が一選択に迷われる場合には「わからない」をお選びください。

		ま じ ら な い	全 く 当 て は ま ら な い	ほ と ん ど 当 て は ま ら な い	あ ま り 当 て は ま ら な い	当 て は ま る	ま る よ く 当 て は ま る	非 常 に よ く 当 て は ま る	わ か ら な い
1	がんの人と一緒にでもくつろげる	1	2	3	4	5	6	*	
2	がんの人と一緒にでも気楽でいられる	1	2	3	4	5	6	*	

Q10. あなたご自身が、がんと診断されたら、家族や友人などだれか身近な人のがんのことを自由に話せると思いますか。この中からひとつだけお答えください。

1. 話せると思う 2. どちらかといえば話せると思う 3. どちらかといえば話せると思わない
4. 話せると思わない 5. わからない

資料 1 がん教育調査票案 (つづき)

Q11. 以下のそれぞれが、あなたにとって簡単か難しいかについてお聞きします。「とても簡単」から「とても難しい」までで、最もあてはまるものに○をつけてください。(それぞれひとつずつ)

		とても簡単	やや簡単	やや難しい	とても難しい	あてはまらない／ わからない
1	メディア（テレビ、新聞、インターネット、SNS など）から得た病気に関する情報が信頼できるかどうかを判断する	1	2	3	4	5
2	メディア（テレビ、新聞、インターネット、SNS など）から得た情報をもとに病気から身を守る方法を決める	1	2	3	4	5
3	健康になるためのメディア（インターネット、雑誌、SNS）情報を理解する	1	2	3	4	5

Q12. がんの正しい情報にたどりつくために、以下のそれぞれが、あなたにとって簡単か難しいかについてお聞きします。「とても簡単」から「とても難しい」までで、最もあてはまるものに○をつけてください。(それぞれひとつずつ)

		とても簡単	やや簡単	やや難しい	とても難しい	あてはまらない／ わからない
1	今、必要な情報は何か、考える	1	2	3	4	5
2	インターネットを活用する	1	2	3	4	5
3	がん相談支援センターを利用する	1	2	3	4	5
4	信頼できる情報が、考える	1	2	3	4	5
5	行動する前に、周囲の意見を聞く	1	2	3	4	5

資料1 がん教育調査票案 (つづき)

Q13. 健康や医療に関する情報は、自分の健康、そして命に関わるものです。がんに対する情報を見聞きしたときに、自分にとって正しい情報であるかどうかを判断するために、以下のそれぞれが、あなたにとって簡単か難しいかについてお聞きします。「とても簡単」から「とても難しい」までで、最もあてはまるものに○をつけてください。(それぞれひとつずつ)

		とても簡単	やや簡単	やや難しい	とても難しい	あてはまらない／ わからない
1	いつの情報か	1	2	3	4	5
2	だれが発信している情報か	1	2	3	4	5
3	何を根拠にしている情報か	1	2	3	4	5

Q14. あなたは、がんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこで情報を入手しようと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

1. がん相談支援センター (がん診療連携拠点病院の相談窓口)
2. 病院・診療所の医師・看護師や①以外の相談窓口
3. 保健所・保健センターの窓口
4. 図書館
5. 新聞・雑誌・書籍 (4以外)
6. テレビ・ラジオ
7. 国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」
8. インターネット (7以外)
9. 家族・友人・知人
10. その他
11. 情報を入手しようと思わない
12. わからない

Q15. 授業で、ニュースや新聞などで取り上げられたがんの話題を紹介されて、学習する内容に興味・関心をもったことはありますか。

1. ある
2. どちらかといえばある
3. どちらかといえばない
4. ない

Q16. 授業を受けた後で、がんに関する情報を自ら調べたことがありますか。

1. ある
2. ない

Q17. 授業で学習したがんに関する内容について、家族や友人と話題にしたことがありますか。

1. ある
2. ない

ご協力ありがとうございました。